

実録!!大崎一万発の波乱万丈銀玉人生

あの一晩の日本の時

パチンコ必勝ガイド編集部編

だからもう打てない。絶対!

時代の空気がそれを作った



1993年7月17日号

第13話 ラブソディー [西陣]

目次に謝罪広告が掲載されている。前々号の特集記事で、正規の部品を遠隔操作作用として掲載してしまったのである。今なら大変なことになる。てか、それよりもヤバいことになってますよね白夜書房。

ゲーム性やギャンブル性を忠実に再現したところと絶対に戻らないものがある。地続きだった「あの頃」が、いい!と気付いた時、僕はパチンコとの付き合い方を変えたのです。

理由がない。まれにガチで打つこともなくはないが、そんな時は負け上等の覚悟が必要となる。そして実際に笑えない額を(しかも短時間で)やられる。そして、次が肝心なだけけれど、ギャンブル性が低い! つまりアツくない! いやアツいんだけどイマイチ! アムテックスもフアフナーを見習えよ! つて、これは無理な相談。ターミネーター2やフアフナーが攻略でぶっこ抜かれたからメーカーもホールもあきらめたのである。

もう、役モノ系のスリルとギャンブル性を両立させた機種が出ることはない。買う勇氣のあるホールもない。甘デジ化することで、ギリギリ何とか生き延びたのだ。入れるゲームとしてパチンコは、今や奇特なホールと善意のマニアに支えられる絶滅危惧種である。

考えても詮ないが、もしタイムボカンがMAXデジパチばりに連チャンする仕様だったら……つて、結局のところギャンブル性が一番という身も蓋もない結論に行き着くのがパチンコの弱点いやいや吸引力である。いや玉が回ってる間のバクバク感と

ことある毎に「役モノ系はアツかった」みたいな言話ばかり垂れてきた。もちろん今でもその気持ちに変わりはないが、白状すればホー助や鉄火はあばを積極的に打つことはまずない。仮に設置店で実戦の機会があっても、まずダルマツシユとかゴッドとか荒い台にブツ込んで、納得するか心折れるかした後に2時間ぐらいいりハビリするかな……の位置付けに過ぎないので、ウソツキと並べられても当然の言行不一致である。

なんだかんだ言ってもぶっちゃけギャンブル性

ラブソディー [西陣/1993年]

機種名ともゲーム性とも関係ない金時絵風味の美麗和風デザインがミスマッチ。今盛んにブッシュしている「和風」と言えば西陣」は、この当時にルーツがある。



基本データ	
当たり確率	6分の1
賞球	7&15
当たり出玉	約2,300個×2回~10回
備考	10連確定のデジタル確率は16分の1。連チャンは自力である。

言ったら「とかナントカ騒いだところ、それは礼束が目の前にちらつくアツさである。自分の手にできるか否かがリアルに眼前で決定されるドキドキである。つまりはキセルや役モノ合体と何の変わりもないのである。法の上ではいくらゲームですと言いつつたところで、一時の娯楽に供する以上の金品を得ようと挑むのがパチンコの本当。デジタルだアナログだ以前に、カネが動くからみんな打つのだ。いや私は1パチだけと、ですと!? うむ、もしお小遣いが10倍だったら? 4パチやつてますよね。それがパチンコやつてないかのどっちかだ。

もう絶対に無理だから今打たせろとか言わない

前置きが長くなりすぎた。今回は西陣の「ラブソディー」である。設置された93年当時、一発系の台は今言うMAXタイプのカテゴリに位置していたのだが、そこにさらに! 連チャン性を載っけてしまったのが本機。役モノのアツさ+ギャンブル性が最高レベルで融合した機種だったわけ、そして破壊力抜群(だけどやるのは一部

に限られた止め打ちネタも存在したわけで、入れるパチンコ派のプレイヤーがまた多数だった業界事情の中、当然の人氣を誇ったのである。

基本ゲーム性は、回転体振り分けの権利モノである。1回目の権利は6分の1の役モノ当たり。2回目は、盤面右サイドのミニデジタルが揃う。権利モノだが実質は、4千発取れる一発台である。そして、ここからラブソディーを唯一無二の爆裂台に仕立てた機能なのだ。1回目の役モノVに入賞した時、盤面左サイドのミニデジタルも回る。ここで77が揃うと一気に10回権利のラッキー大当たりなのだ! どうしてそんな仕組みがOKだったのか全然わからないけれど、一撃2万発なのだ! さらに、10回目で揃うともう10回……という具合に、16分の1でループしていく。ワハハ、マズいよね。ヤバイよね。

今あつたらガブって打つてる。でも導入即で止め打ち攻略されて、穴陥台としてシマ閉鎖される。いやそもそもメーカーのチェック機能で世に出ない。という右デジタルの確率はメーカーがやらかしてたから(公称値は40分の1だがすぐ揃った今なら業界を揺るがす大問題だし、うむ、こういうことつらつら思い出すと、やっぱり昔は良かったなアツて(↑またかよ。ゲーム性とかギャンブル性とかのそのもつともつと以前に、時代が違った、社会が違ったってことなんですわね。なんか申し訳ないです。

OSAKI ICHIMANPATSU

大崎一万発 / おおきき いちまんぱつ
パチンコ情報誌『パチンコ必勝ガイド』(白夜書房)元編集長。現在はフリーランスとして多数のファン雑誌・情報誌に連載を持つ傍ら、テレビ・ラジオの専門チャンネルやホールイベントでも幅広く活躍中。その実績はただのパチンコ中書とか、『パチスタ★TV レバーオン』にもゲストで出演中!
Blog <http://love-pachi.com/>
Twitter [@manpatsu](https://twitter.com/manpatsu)

こぼれネタ

SANKYOのF.フェスティバルと権利モノ・パニーズにモーニングセット発覚のスクープが掲載されている。どちらも簡単な方法で(スタートセンサーを感じさせた状態で電源を入れる)ホール側が当たりを仕込むことができた(もちろん、規定通りならあつてはいけない付加機能である)。今のパチンコ客は朝並はないと嘆く店長が多いが、特典がない、おまけに釘も期待できないは無理ってものである。